平成２２・２３年度熊本県教育委員会指定・天草市教育委員会指定

「生きる力」を育む研究指定校（学力充実研究推進校）研究発表会

《研究紀要》

研究主題

思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導の工夫

～熊本型授業の具体的展開の工夫を通して～

平成２３年１１月８日（火）

天草市立栖本中学校

ごあいさつ

平成２０年３月に新学習指導要領が告示され、これからの中学校教育の方向性が示されました。来年度からの全面実施に向けて、各学校では新学習指導要領の趣旨を生かした教育実践を積み重ねております。

新学習指導要領総則に、「各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」と記されています。

栖本中学校では、平成２２年度から２カ年にわたって熊本県教育委員会及び天草市教育委員会の学力充実研究推進校の研究指定を受け、研究主題に「思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導の工夫」を掲げて、新学習指導要領の趣旨実現のために、生徒の学力向上と教職員の授業改善に取り組んで参りました。特に、「熊本型授業」づくりの具体的かつ実践的な研究では、教師の意識改革と資質向上、学習指導の工夫改善、生徒の学習意欲向上の３点について、創意工夫を生かした特色ある教育実践を進めて参りました。

ここに、２年間の成果を発表するにあたり、多くの皆様のご参会をいただき、大変ありがとうございました。皆様のご批正を仰ぎながら、今後のさらなる研究に生かしていきたいと思います。また、各学校におかれましても、児童・生徒の実態に応じて、研究内容を進化・発展させていただき、本研究のさらなる充実をお願いできればと思います。

最後になりましたが、これまでご指導とご協力いただきました熊本県教育委員会、熊本県天草教育事務所の先生方をはじめ、多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成２３年１１月

天草市教育委員会　教育長　岡部　紀夫

はじめに

新しい学習指導要領が平成２０年３月に公示されました。移行措置を経て中学校では平成２４年度に全面実施となりますが、「生きる力」をより一層はぐくむことを目指しています。

栖本中学校の教育目標は、『「生きる力」を身に付け、夢の実現に向けて邁進する生徒の育成』です。本校の子どもたちに、この「生きる力」をしっかりと身に付けさせ、進路選択も含めた夢の実現に向けて邁進していけるようにとの願いから設定したものです。

そのような中、本校は、熊本県教育委員会及び天草市教育委員会から平成２２・２３年度「生きる力」を育む研究指定校として「学力充実研究推進校」の指定を受けました。研究主題を「思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導の工夫」、サブテーマを「熊本型授業の具体的展開の工夫を通して」として研究を進めてきました。

特に、思考力、判断力、表現力の育成に向けた授業改善や学習意欲の向上のための取組に力を注ぎました。中学校では、教科の特性があるから専門外は難しいという考え方もあるようですが、授業研究会の実施方法を工夫し、課題の設定や提示方法、発問や板書、発言の取り上げ方や実態把握の方法、授業の流し方等のどの教科等でも必要なものを共通のテーマとして論議することとしました。

また、その中で、通常、管理職が行う「まとめ」を授業者に行わせるという手法をとりました。なぜなら、「まとめ」をするためには、自分の授業を振り返り、課題を整理できる力がなければなりません。先生方には、ぜひ、この力を身に付けてほしいと考えています。そして更に、整理した課題を次の（日常の）授業実践に生かすことを目的にしてほしいのです。そのことが、結果的に子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせることになるからです。

本日は、研究の実際と取組の一端を公開し、ご参会の皆様方のご意見、ご指導をいただき、今後の研究の一層の充実に生かしていきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究の推進にあたり、ご指導、ご助言をいただきました熊本県教育委員会、天草市教育委員会をはじめ多くの関係の皆様方に衷心より感謝申し上げます。

平成２３年１１月８日

天草市立栖本中学校
校長　大竹紳一郎

目　　次

ごあいさつ

はじめに

Ⅰ　研究の概要

1　研究主題　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　研究主題について　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

3　主題設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

4　研究の仮説と視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

5　研究組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

6　研究の全体構想　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅱ　研究の実際

1　視点１－１「授業づくりのための教師の意識改革と資質向上を目指して」・・・・・・・・・・・・　6

2　視点１－２「熊本型授業の展開を目指して」・・・・・・・・　8

3　視点２　「生徒の意欲向上を目指して」・・・・・・・・・　１３

4　その他の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

Ⅲ　研究のまとめ

1　熊本県学力調査の結果から　・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

2　Ｓ－Ａ創造性検査の結果から　・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

3　生徒の意識調査から　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

4　視点ごとの考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

5　今後に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

おわりに

Ⅰ　研究の概要

1　研究主題

思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導の工夫
～熊本型授業の具体的展開の工夫を通して～

2　研究主題について

『思考力・判断力・表現力』のとらえ方

学習指導要領の第１章　総則　第１　教育課程編成の一般方針　１　より

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

現行の学習指導要領

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

新学習指導要領

本校では、
思考力・判断力・表現力を
「思考」、「判断」、「表現」それぞれひとつひとつの個別の力としてではなく、既習の知識や技能を用い、課題を解決するために総合的に活用する一連の力としてとらえる。
そのため、実践化を図る手だてとして、
単元を通しての目標を明確にした課題を設定し、見通しを持って１単位時間の学習展開の中に、自分の意見・考えを根拠を添えて述べる言語活動を組み入れることにより課題解決を図らせていきたいと考える。

3　主題設定の理由

（１）　時代の要請から

ＰＩＳＡ等各種調査による課題として、次の３点が挙げられている。

① 思考力･判断力･表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題における正答率が低いこと。
② 読解力で成績分布の分散が拡大しており、その背景には家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣などが考えられること。
③ 自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下が考えられること。

中央教育審議会答申の基本的な考え方

① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
② 「生きる力」という理念の共有
③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
④ 思考力・判断力・表現力等の育成
⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

新学習指導要領 第１章 総則 第４
指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 ２－(1)より

各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

（２）本校の教育目標から

本校では、教育目標を、「『生きる力』を身に付け、夢の実現に向けて邁進する生徒の育成」と設定し、その具現化に努めている。校内研究では、「生きる力」を構成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の中にある「確かな学力」の定着を目指して、基礎的・基本的な知識及び技能の習得とそれらを活用して課題を解決する「思考力・判断力・表現力の育成」に取り組むことが必要であると考え、研究主題を設定した。また、その具現化のために「熊本型授業の具体的展開」を工夫し、１単位時間の中に、習得した基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決する場面を設定し、研究を進める必要があると考えた。

（３）生徒の実態から

ア 熊本県学力調査の結果から

平成２２年度の熊本県学力調査の結果

（平均を１０ポイント以上上回った・・・青、上回った・・・水色）

（平均を下回った・・・桃色、１０ポイント以上下回った・・・赤）

	１年（現２年）		２年（現３年）	
	平均を上回った観点	平均を下回った観点	平均を上回った観点	平均を下回った観点
国語	関心・意欲・態度		関心・意欲・態度	
	話す・聞く能力			話す・聞く能力
	書く能力		書く能力	
	読む能力		読む能力	
	知識・理解・技能		知識・理解・技能	
社会		関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	
	思考・判断		思考・判断	
	技能・表現		技能・表現	
	知識・理解			知識・理解
数学		関心・意欲・態度		関心・意欲・態度
		見方や考え方		見方や考え方
		表現・処理	表現・処理	
	知識・理解		知識・理解	
理科		関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	
		思考		思考
		技能・表現		技能・表現
	知識・理解		知識・理解	
英語	関心・意欲・態度		関心・意欲・態度	
	表現能力		表現能力	
	理解能力			理解能力
		知識・理解		知識・理解

この結果から、生徒の実態として以下のことが分かる。

① 教科別にとらえると、数学、理科において下回っている観点が多く、苦手意識がうかがえる。

② 観点別にとらえると、２学年ともに数学の「数学的な見方や考え方」や理科の「科学的な思考」の観点で下回っており、「思考」に課題があることが明らかである。

イ 熊本県学力調査質問紙調査Ａ（生徒用）の結果から

アンケートを集計し、分析・考察を行った結果、以下のことが分かる。

① 学習に対する有用性、有効性、積極性に対する指標は学年により大きなバラツキが見られる。

② 学習の有用性と意欲との間には相関関係が見られる。

③ 各教科の学習に対する好き嫌いと理解度との相関関係が見られる。

ウ　標準学力検査の分析

全国平均を下回る教科は、１年社会と３年数学だけであり、総合的には全国平均をやや上回っている。男女差がややあり、若干男子が女子を上回っている。また、１年の成就値が、わずかながら期待値を下回っている。

以上のことから、本校の生徒の実態として、「思考」に課題があること、学習の有用性や教科に対する生徒の意識が意欲や理解度と深く関わっていることが明らかとなった。そこで、「思考力・判断力・表現力の育成」に取り組むこと、また、生徒が授業は役に立つと実感し、自ら意欲的に学習へと取り組もうとする意識を高めることが必要であると考え、研究主題として設定し、その具現化に努めることとした。

4　研究の仮説と視点

（１）研究の仮説

①　１単位時間の授業の中で、学習指導の工夫改善（課題の設定や発問・板書、学習過程等）を通して基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題解決を図らせることにより、思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。

②　学び方（家庭学習の仕方、学習訓練等）を身に付けさせるとともに補充指導を工夫・充実していくことにより自ら学ぶ意欲が向上し、思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。

（２）研究の視点

【視点１－１】　授業づくりのための教師の意識改革と資質向上を目指して
【視点１－２】　熊本型授業の展開を目指して
【視点２】　生徒の意欲向上を目指して

5　研究組織

校　長

教　頭

校内研究推進部（運営委員会）

全体会（校内研修）

学年部会

研究部会

◎授業研究・理論研究＜全職員＞

授業の中での共通事項の設定（課題設定や学習過程の工夫など）についての研究を進める。

ワークショップ型の授業研究会を実施し、研究授業前後の流れの工夫・改善を行う。

○学習環境部＜◎岩本・寺田・中山・尾中・野島・教頭＞

生徒の学習に対する意欲向上を目指し、補充学習や特設のトレーニングタイム、家庭学習を含めた学力充実に向けた取組の企画、立案、評価などを行う。

○授業研究部＜◎松本・弓削・中本・小森・錦戸・校長＞

熊本型授業の展開を目指して、学習の過程に沿った思考力の向上を目指した取組の企画、立案、評価などを行う。

6　研究の全体構想

（1）　研究構想図

学校教育目標

「生きる力」を身に付け、夢の実現に向けて邁進する生徒の育成

生きる力

求める生徒像

思いやりのある生徒（友愛）	主体的によく学ぶ生徒（自主）	よく鍛え、活気のある生徒（剛健）
豊かな心	**確かな学力**	**健やかな体**

研究主題

思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導の工夫

～熊本型授業の具体的展開の工夫を通して～

研究の仮説

①１単位時間の授業の中で、学習指導の工夫改善（課題の設定や発問・板書、学習過程等）を通して基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題解決を図らせることにより、思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。

②学び方（家庭学習の仕方、学習訓練等）を身に付けさせると共に補充指導を工夫・充実していくことにより自ら学ぶ意欲が向上し、思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。

研究の視点

【視点１－１】授業づくりのための教師の意識改革と資質向上を目指して

〈共通理解〉
- 授業づくりについての共通実践事項設定
  （単元を見通した学習過程）
  （課題設定の工夫等）

〈推進体制の組織化〉
- ワークショップ型の授業研究会実施
- 研究授業前後の流れの工夫・改善
  （授業者による総括）

【視点１－２】熊本型授業の展開を目指して

学習指導の工夫改善（課題設定、発問・板書、学習過程）

導入場面の工夫
- 意欲を高める課題設定
- 課題意識を持たせる発問

▽

一人学びの工夫
- 「発表しよう！」で根拠を明確に
- 「思考アイテム」で思考の整理

▽

学び合いの工夫
- 思考の過程が残るノート記入
- 発表ボードで意見を分類

▽

まとめの工夫
- 授業の振り返りを自分の言葉で（「振り返りカード」記入）

【視点２】生徒の意欲向上を目指して

〈家庭学習〉
- 自学メニューの作成と活用

〈基礎・基本の定着〉
- Ｓ－Ｔｉｍｅ
- 棚ドリルの活用

〈学習意欲の向上〉
- 質問学習
- 集中学習会
- 発表コンクール

〈表現力アップトレーニング〉
- Ｓカード

研究の評価

・教師の意識調査 ・生徒による授業への意識調査	・熊本県学力調査 ・Ｓ－Ａ創造性検査 ・定期テスト等でのゆうチャレンジの活用	・Ｓ－Ｔｉｍｅデータ分析 ・自学ノートの内容の変容

（２） 生徒用研究構想説明図（生徒との研究の共有を目指して）

求める生徒像

主体的によく学ぶ生徒

思いやりのある生徒

よく鍛え活気のある生徒

す・も・と ' 7つのS '

説明しよう！

思考アイテムを活用しよう！

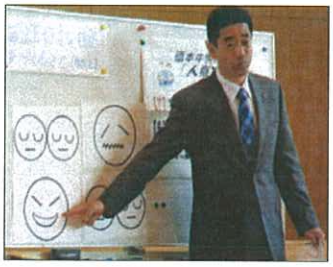
S－Timeをきっかけに！

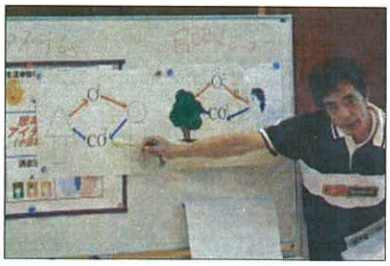
棚ドリルで STEP UP！

生徒の力で 変えていこう！

好きになろう！ 自分自身

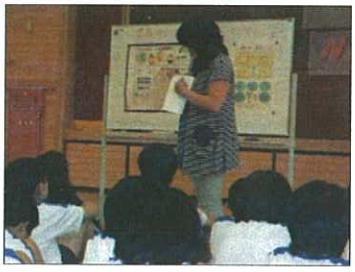
すこやかな身体をつくろう！





生徒会執行部による説明

取組について生徒に説明する本校職員



Ⅱ　研究の実際

1　視点１－１「授業づくりのための教師の意識改革と資質向上を目指して」

（1）概要

研究主題を受け、質の高い授業づくりを目指し、全教諭による研究授業を実施している。授業改善の手だてとして、授業における共通実践事項の設定や、ワークショップ型の授業研究会の実施、指導案の事前検討会や授業研究会時の授業者による自評やまとめ等を実践している。

（2）具体的取組

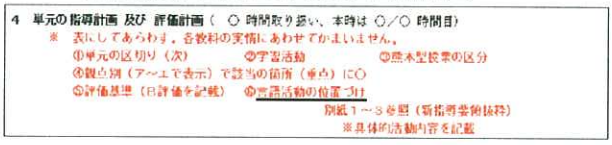
ア　授業づくりについての共通実践事項設定

各教科にはそれぞれ特性があるが、授業の中で共通して実践する事項を検討し設定した。授業づくりにおいて各授業者が意識して取り組んでいる。

①　単元を見通した学習過程

・単元の中での徹底・能動のめりはり

・言語活動を位置付けた単元計画


4　単元の指導計画 及び 評価計画（　○ 時間取り扱い、本時は ○／○ 時間目）

※　表にしてあらわす。各教科の実情にあわせてかまいません。

①単元の区切り（次）　②学習活動　③熊本型授業の区分

④観点別（ア～エで表示）で該当の箇所（重点）に○

⑤評価基準（B評価を記載）　⑥言語活動の位置づけ

別紙１～３参照（指導要領抜粋）

※具体的活動内容を記載

保健体育での実践例

4．単元の指導計画及び評価計画

指導計画			評価規準						
次	主な学習活動	時数	能徹	関心意欲態度	思考判断	技能	知識理解	評価基準（B評価）☆ 評価方法	言語活動
1	○オリエンテーション 測定の手順、班編成、目標設定など		徹能		◎		○	前部の距離から50m走の記録から目標を設定することができる。 自学習カード	
2 ●本時	○踏み切り前に適した脚のリズムを考える。		能	◎	○			踏み切りに適した脚のリズムを、体を動かしながら探そうとしている。 自己観察、学習カード	文字や音をもとに動きを連想する
	○スピードを生かしてリズムよく踏み切		徹能			◎			

資料Ｐ１．２参照

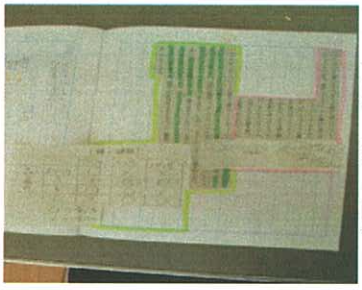
②　小学校や過年度の学習内容の把握と授業での活用

小学校時の教科書を棚に収集し、必要な授業では教室に持ち込み、既習事項の確認等に活用している。

③　言語活動を意識した授業づくり

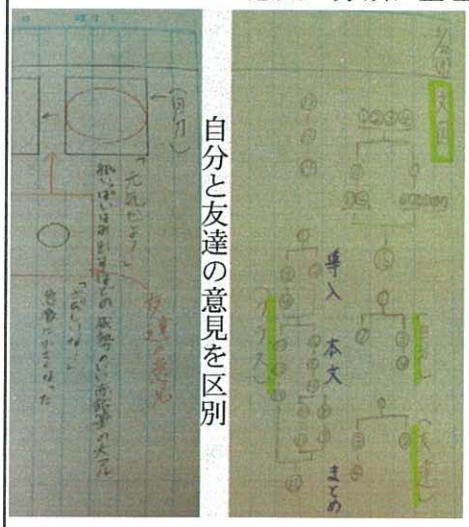
・付箋やボードを使った班での意見の練り上げ

・変換（文字表現⇔図・表・記号）

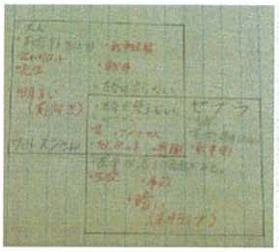


文章を表に直す

・意見の分類、整理



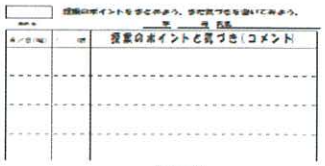
自分と友達の意見を区別



一人学びの場で

学び合いの場で

・授業の最後に生徒が振り返る時間を設定


授業のポイントと気づき（コメント）

生徒配布用

授業のポイントと気づき（コメント）

記入例

資料Ｐ２８．２９参照

イ　ワークショップ型の授業研究会の工夫

資料Ｐ３～５参照

①　各教師は研究授業の際、以下の視点で２色の付箋に気付き等をメモしながら参観した。

【視点Ａ】熊本型授業の推進
（能動と徹底のめりはり、学習過程の工夫）
【視点Ｂ】発問の工夫、板書、言語活動の充実

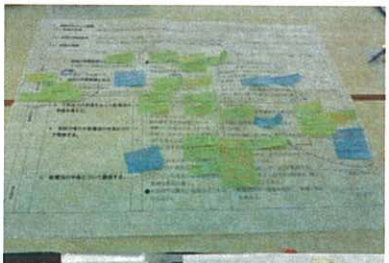
※　よかったところ・・・黄色の付箋
※　気付き・改善点・・・青色の付箋

②　授業研究会の冒頭で授業者は以下の３点について自評を行った。

①　本時の展開で工夫した点
（生徒の実態・なぜこのような展開を意図したのか）
②　①に対しての生徒の反応はどうだったか
③　評価との関係について

③　授業研究会では、少人数でグループ協議し、忌憚なく意見交換できるメリットを生かし、それぞれのグループで、参加者が拡大した指導案に付箋を貼りながら協議の柱に沿って協議を進めた。

【協議の柱】
①熊本型授業の推進（徹底と能動のめりはり、学習過程の工夫・改善）
②生徒が主体的に取り組むための発問、板書、発表の仕方、話し合い活動



④　各グループの代表者が協議内容を紹介した。

⑤　授業者は授業研究会の最後にまとめを述べた。

※授業者本人がまとめを行う理由は、
授業を振り返り
①自分の課題を整理できる力量をＵＰさせるため
②次時や今後に生かすことができるようにするため

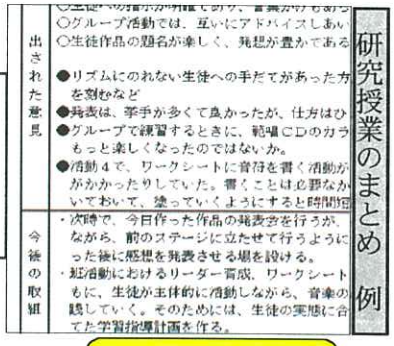
出された協議内容で特にポイントと考えるところ

今後の取組

①本時の内容を次回する場合、どう改善するか？

②本時の授業での成果と課題を当該クラスの授業にどう生かすか？

③学校全体で共通理解・共通実践すべきことはどんなことか？



研究授業のまとめ例

出された意見	○グループ活動では、互いにアドバイスしあい ○生徒作品の題名が楽しく、発想が豊かである ●リズムにのれない生徒への手だてがあった方を刻むなど ●発表は、挙手が多くて良かったが、仕方はひ ●グループで練習するときに、範唱CDのカラもっと楽しくなったのではないか。 ●活動４で、ワークシートに音符を書く活動がかかったりしていた。書くことは必要なかいておいて、塗っていくようにすると時間短
今後の取組	・次時で、今日作った作品の発表会を行うが、ながら、前のステージに立たせて行うようにった後に感想を発表させる場を設ける。 ・短活動におけるリーダー育成、ワークシートもに、生徒が主体的に活動しながら、音楽の聴していく。そのためには、生徒の実態に合てた学習指導計画を作る。

資料Ｐ５～１６参照

ウ　研究授業前後の流れの工夫・改善

①　全員が教科の研究授業を大研で行う。

②　授業実施の前週木曜日の朝自習の時間に指導案の事前検討会を行った。授業者と授業研究部の職員、校長・教頭が参加し、授業展開の部分を中心に話し合い、よりよい授業づくりを目指した。

③　各教科担当が１名であるため、全職員で話し合える共通の視点を協議の柱とし、授業参観及び授業研究会を行った。

④　授業者は授業改善に役立てるため、授業研究会後に自分の課題を整理し「研究授業のまとめ」を作成した。

2　視点１－２「熊本型授業の展開を目指して」

（１）概要

研究主題を受け、学習指導の工夫改善（課題設定、発問・板書、学習過程）を図るため、**ア　導入場面の工夫　イ　一人学びの工夫　ウ　学び合いの工夫　エ　まとめの工夫**　の４つを視点として研究を行った。課題解決のために既習の学習内容を生かし、根拠を明確にしながら自分の意見を述べる学習活動の手だてとして、「思考アイテム」、「発表の仕方」、「振り返りカード」を生徒に提示し、活用を図ってきた。

（２）具体的取組

ア　導入場面の工夫

課題設定のモデル

① 最終的に生徒にどういう力を付けさせたいのかを具体的にイメージ

② どういう活動をさせたいのか

③ そのためには、どういう学習過程で

④ どういう課題を設定するか

ゴールからの逆算的イメージで

生徒が目的を理解し、ゴールを目指して自分で進んでいける課題を設定する。

実践例１　国語

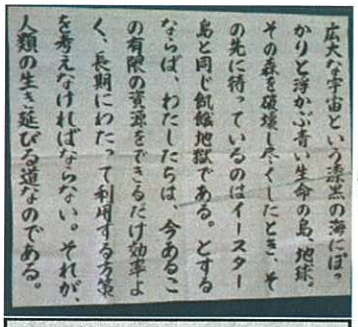
① 第２学年イ　〔ものの見方や考え方〕「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること」

② 「筆者の考えを読み取る」学習と関連させて、「自分の考えをまとめて表現する」活動を行う。

③ 教科書は使用せずに結論を隠して提示し、筆者の主張を推測させる学習を行う。

④ 「モアイは私たちに何を語っているのだろうか？」

授業の流れ


筆者の主張との比較

筆者の主張を予測

課題の提示

前時の学習内容の振り返り

イ　一人学びの工夫

・「発表しよう」＝根拠の明確化

本校生徒は、自分の意見を持っていても自分の意見に自信が持てないため、なかなか進んで発表しようとしないという課題がある。そこで、なぜそう考えたのかという理由を明確にすることが、発表への自信につながるのではと考え、その手だてとして、「発表しよう」という発表の話型を提示した。

生徒が、「なぜか」と自分自身に問うことで、自分の意見を再検討し、根拠を求める「一人学び」を行うことへとつながり、それを習慣化することが、結果的には、自分の力で思考し、判断する力を育てるものになると考える。

発表しよう

一　意見　「私は〇〇だと考えます。」

二　根拠　「なぜかというと～だからです。」（どうしてかというと）

三　結論　「だから、私は〇〇だと考えます。」

＊自信を持って大きな声で発表する。

資料Ｐ１７参照

・「思考アイテム」の活用

授業で、生徒が思考・判断する場面では、「思考アイテム」を意識させ、アイテムを活用させることにより生徒の思考を促した。「これまで学習したことがヒントにならないか。」「普段の生活の中に糸口はないか。」「分類すると‥。」「この答えはあてはまらないな‥」など課題解決を図る際、「思考アイテム」を意識することで解決のきっかけとなったり、意見を述べる時の根拠とすることができる。昨年度使用していたアイテムを再検討し、より考え方が広がり、使いやすいものになるよう改善を加えた。

昨年度版

本年度版

実践例１　理科「乾電池の仕組みは？」

理科の授業では、テレビ・雑誌等の知識や小学校での既習内容を思い起こしたり、消去法を用いたりしながら「乾電池の中身」についてそれぞれが意見を出すことができた。

生徒が導き出した考えについて、「どのアイテムを活用したのか」を、教師や生徒がその場で確認することにより、自分の思考や方法を再確認している。

実践例２　集団宿泊教室での活用

入学後まもなく行うわれる集団宿泊教室で「思考アイテム」を紹介し、その活用方法について理解することで、生徒たちが授業でスムーズに活用できるように取り組んでいる。

実践例３　保健体育「走り幅跳び」の授業

【選択肢の提示】

【予想】

【方法を選んでの一人学び】

体育の走り幅跳びの授業では、活動する前にこれまでの生活体験から、どのようにすればより遠くまで跳べるかを予想し、いろいろな意見をもとに活動を行った。技能習得はもちろん、思考の場を設定することで生徒はより意欲的に、そして主体的に活動に取り組むことができた。

思考アイテム活用例（生徒バージョン）

・理科：小学校のときやったものをつなげながら予想することができた。
・英語：小学校から総合的な学習の時間に英語で話したり書いたりしていたから、中学校でならったばかりの単語でもすぐ書けた。
・家庭：社会で習った男女共同参画社会は、家庭科の時間に出てきて、それをふまえて、より理解できた。
・国語：前にならった漢字が新しい漢字と組み合わさって出てきたとき、前にならった漢字の読み方が分かって、新しい方も読めた。

・家庭：調理実習のとき、家で包丁で野菜を切ったりするので、包丁が使えたこと。
・技術：自分が体験したことを作業中に活かすことができる。
・理科：魚はどこから空気を吸って吐いているのかで、昔、家で熱帯魚を買っていたので、それをみてすぐ分かった。
・理科：鏡が反射するのを体験していたから、授業が分かりやすかった。
・社会：実際に自分がいったことがあるところの問題があって、生活体験学びを使うことができた。
・国語：生活の中で学んだことなどをいれて根拠を説明した。

・社会：ニュースなどであったことが社会のときに役立つから。
・社会：国の場所を答えるとき、毎日自分で地図を見ていたから、すぐに答えられたことがある。
・国語：お母さんたちが話していたことを授業の中で先生が話された。
・理科：実験に入る前にどうなるか？と予想するとき、テレビで見たりしていると予想が立ちやすいときがある。
・英語：単語の意味がわからなかったとき、前テレビでその単語をこんな場面で使っていたから、こんな意味かなと思って書いたら正解だった。

・数学：答えが分かったときに、もっと簡単に解けないか、考えている。
・英語：ある問題で、どんな表現があるか、いくつか考えた。
・国語：1つのものから、たくさんの物に広げていった。
例
夏－暑い－汗－プール
・数学：いっぱいのやり方を使って、自分の納得のいく解き方をみつけるのに活用している。
・国語：文章で答えるとき、正解は1つじゃないことが分かった。

（天草市立倉本中学校）

・国語：文章を大まかにみたり、大事なところを探す時に使う。
・社会：アリさん見方ではその時代だけで考え、トリさん見方では他の時代全体を見て考えた。
・美術：自分で書いた絵を近くで見たり、遠くで見たりしている。
・道徳：お話の中に出てきた登場人物の気持ちなど、トリさん、アリさん見方で考えることがある。
・数学：文章問題を解くときに、何を求めるかをトリさん見方でみてからとく。
・社会：一部だけを考えても分からない時、今まで習ったことをすべて思い出して考えた。

・数学：問題を解くとき、整理して理解するために使っている。頭の中で考えているものが形になるので、分かりやすい。
・国語：段落のつながりを図に表して書いた。
・社会：かいてはいないけど、社会の時は理由もいるので、その図を頭の中に書くことができた。
・理科：電気記号の時、記号はどこの部分を表すかを書いたときに使った。
・数学：絵や図を書いて式を立て、答えを導き出すことができた。

・美術：絵を描くときの色で、3つのうち1つを選ぶときに使った。
・国語：分かるものからあてはめていくと、分からなかった問題のところが書けた。
・数学：答えが2つあるときに消去法で答えを出せた。
・理科：5個あった選択肢から、これはありえないというものを線を引いて消すことができた。
・社会：次のうち○○年に起きた戦争はどれかという問題が出たとき、これは○○年だから違うと消していった。

・理科：植物の共通点と違う点を書いてなかま分けをした。
・数学：自然数や整数などを分ける時に使った。
・国語：何段落などに分けたり、こことここは同じようなことが書いてあるから、同じ所に入るなど、文型などに活用している。
・社会：弥生時代と縄文時代を比較し、生活習慣や食べ物について、変わっていない部分と変化した部分を自分で分類した。
・国語：チンパンジーと人を分けて違うところ、共通するところをみつけて活用した。

資料P18～27参照

思考アイテム活用のメリット（教師バージョン・・・効果のあった事例）

・美術：基礎基本の再確認ができるとともに説明の時間短縮になる。
・英語：文法的には難しい内容であるが、既習事項のためスムーズに耳から入る。
・数学：自分の考えを持ちやすい、出しやすい。
・国語：学習内容への抵抗がなくなる。関連づけて考えることで理解しやすくなる。
・理科：一人の生徒の意見を聞いて、他の生徒もつながり学びで答えようとする。

・理科：授業が終わってからも自分の体験を話す生徒が増える。
・英語：身近な物をひきだすことで有用感や意欲が増す。
・社会：自分の経験から考えてよいので、取り組みやすく、発言が増える。
・国語：実体験と関連づけて理解することで、より深く実感できる。
・美術：今までの自分の経験を振り返らせ、よりよい自分の見方改善点、努力点を見いだしやすい。
・音楽：曲を身近に捉えることができ、学習意欲が高まる。

・理科：テレビで見たことを伝える生徒が増える。
・音楽：生活の中で音楽に対して意識するようになる。
・数学：考えが行き詰まった時、考えるヒントになる。
・美術：新聞、インターネット等で幅広い視点で捉えることができる。
・国語：見たり聞いたりした体験と関連づけて理解するで、より深く実感することができる。
・社会：自分が知っていることは出しやすい様子で、発言が増える。

（天草市立栖本中学校）

・数学：いろいろな解法が出て、発想が広がる。
・音楽：1つの曲について、いろいろなとらえ方があることに気づき、思いを共有し、学級で深めることができる。
・英語：整理して理解することができる。
（例）
関係代名詞を使ってどんな機能を持っているかを考える。
・美術：いろいろな視点で考えようとすることができる。幅が広がる。
・理科：特徴や性質をしっかり理解できるようになる。

・音楽：曲の細かい部分まで大切にして聴いたり、歌ったりすることができる。
・社会：歴史の流れをふまえて課題に取り組む生徒がでてくる。
・国語：全体像を見通したうえでの本時の学習がどの部分に該当しているのかが把握しやすい。
・数学：仮定から結論までの流れがわかりやすい。
・英語：押さえるべき内容が整理される。
・英語：完了形の概念が捉えやすくなる。
・美術：多様な視点での物の見方ができ、より深く作品に関われるようになる。

・理科：聞いている生徒に、絵や図で見ることでしっかり発表者の言いたいことが伝わる。
・社会：複数の要素のものを視覚的に整理することができ、理解につながる。
・英語：質問して終わり、答えて終わりではなく会話を続けようとする意識付けになる。
・美術：色や図でわかりやすくまとめる。説明しやすい。
・国語：視覚的に訴えることで理解が深まる。記憶に残りやすい。
・数学：自分の考えを整理することができ、わかりやすくなる。

・美術：質の高い作品づくりへ。絞り込みを行うことで、自分のテーマに迫ったものになる。
・国語：文章に中の表現や明らかになった根拠をもとに、矛盾する内容を削除することで、具体的に絞り込みができる。
・英語：未習やわからない語句があっても答えを絞ることができる。

・英語：言葉で説明するよりも整理ができる。
・社会：資料読み取りの視点を生徒につかませることができる。
・国語：視覚的に訴えることで理解が深まる。わかりやすい。
・数学：共通点や相違点が明確になるので、項目が捉えやすくなる。
・理科：特徴ごとに動物をなかま分けする作業を通して、「進化」の学習へ関連づけることができる。
・美術：イメージ（自分の考え）が整理され、より明確化される。

ウ　学び合いの工夫

・発表による意見の学び合い

・思考過程が残る学び合い時のノート指導

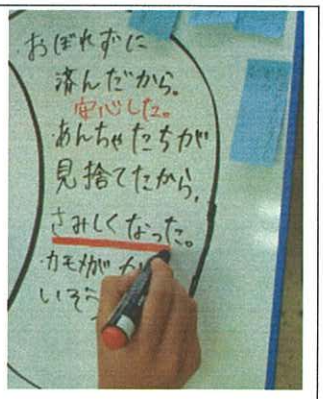
基本的には教科の特性に応じて指導しているが、次のような点で共通理解を図っている。

・一人学びで書いた自分の考えを大切にするため消しゴムは原則として使用しない。
・訂正する場合は、訂正線で消し、答えや考えを追加する。
（自分の思考の過程やどこで何を間違えたのかをきちんと残しておくためでもある。）
・後で振り返る時に、いつ学習したのかを確認でき、書き足しの際にも有効であるように、ノートは余裕を持って使用し、日付を記入する。

・発表ボードで意見を分類

実践例　国語　「発表ボード」でなかま分け

【班で意見を出し合い、まとめる】

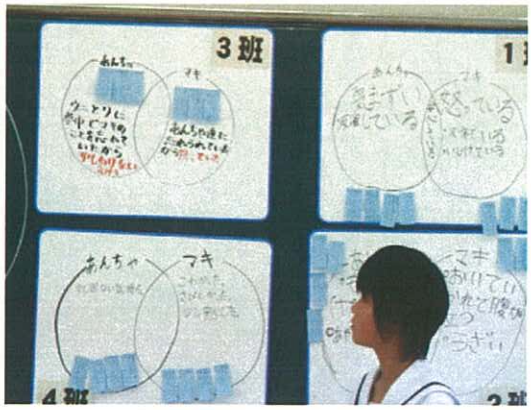


【気持ちは朱書でマーク】

上は班での話し合い活動の様子である。前述の「発表しよう」に沿って、自分の考えを分かりやすく伝え、出された意見を班でまとめながらホワイトボードに記入していく。

本時では、出された意見を「なかま分け」を用いて分類し、班全員での気付きは赤で記入する活動を行う。まとめた考えは黒板に提示し、それぞれどのような意見を持ち、どのように考えたのか、クラスみんなで考えを共有し、深めることができる。

ホワイトボードは各クラスに常設して、いつでも使用できるようになっている。



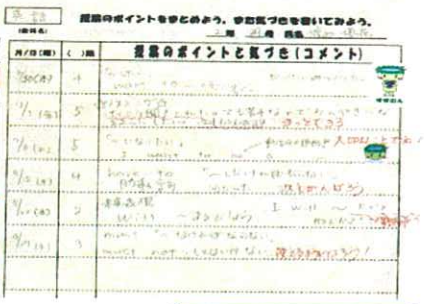
【なかま分け（ベン図）の活用例】

エ　まとめの工夫

・「振り返りカード」の活用・・・授業のポイントと気付き

授業の最後に「振り返りカード」の記入を位置付け、生徒自身に意識させることで、授業に対する主体性の育成に努めた。

・書く内容は自由記述とし、生徒が本時の授業を振り返り、授業で分かったことやできるようになったこと、または、キーワードをまとめていく。授業のポイントを自らまとめることで、単元の流れを理解したり、課題解決の方法を身に付けることを目指す。
・時間は３０秒とし、その中で記入できるようにする。
・定期的に教師からのコメントや頑張りシール等により、意欲付けを図る。



資料Ｐ２８．２９参照

３　視点２　「生徒の意欲向上を目指して」

（１）概要

研究主題を受け、生徒の意欲向上を目指し、家庭学習の習慣化を図るための「自学メニュー」の作成と活用、基礎基本の定着を図るための「Ｓ-Ｔｉｍｅ（五教科大会）」「棚プリント」の活用、生徒の学習意欲の向上のための「質問学習」「集中学習会」「発表コンクール」、表現力アップのための「Ｓカード」を設定し実践を行った。

（２）具体的取組

ア　家庭学習の充実のために・・・「自学メニュー」の作成と活用

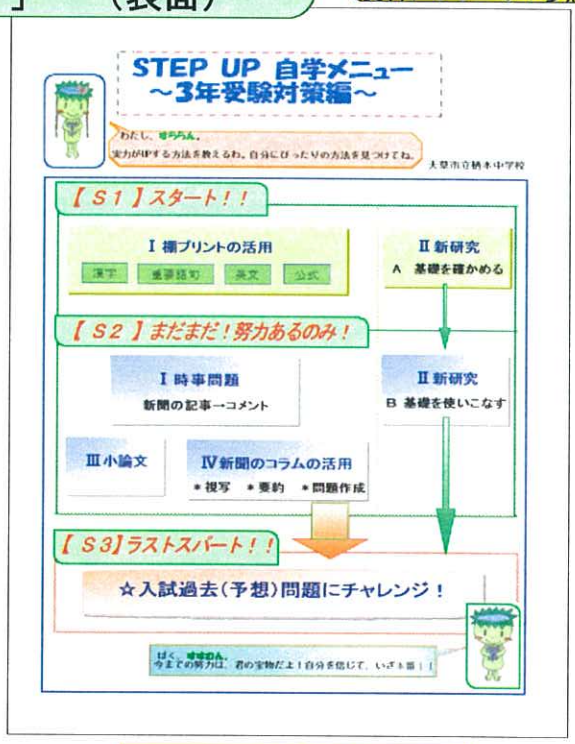
家庭学習で何を学習したらよいか分からないと悩んでいる生徒に向けて、自主学習のためのメニューを作成した。教科を自由に選択でき、内容も「Ｓ－１」から「Ｓ－３」とレベルアップしていくよう３つのコースを設定した。

また、昨年度の実践の反省から、既存の「自学メニュー」では、「受験勉強をする３年生が使いにくい」という課題を踏まえ、３年間の総まとめの学習として取り組めるように「自学メニュー３年生版」を新たに作成した。

「自学メニュー」　（表面）

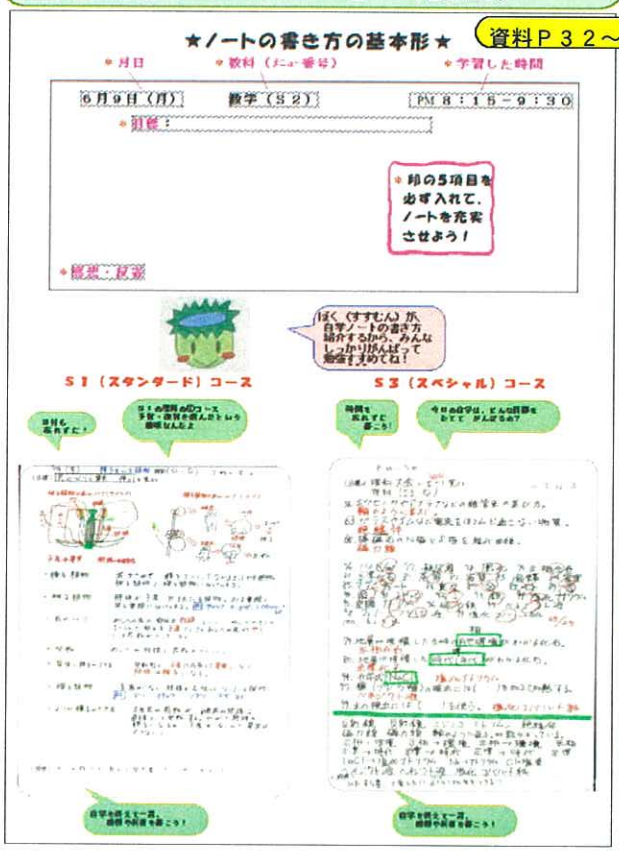
資料Ｐ３０～３１参照

１・２年生版

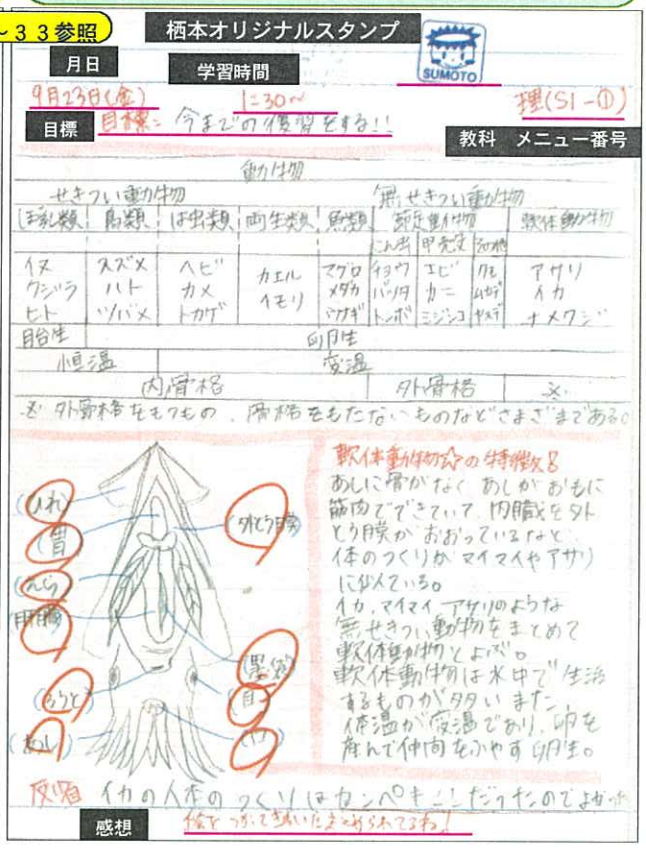


３年生版

「自学メニュー」（裏面）



「自学ノート」　への活用例



また、自主学習を行う際には「**日付・教科名・コース名・内容・目標**」を必ず記入し、終了時には**一言感想**を書き込み、取組の振り返りをするよう促した。クラスの手本となるような自主学習の取組をしている生徒のノートには「頑張りシール」を貼って励まし、定期的に優れた取組を紹介して、自主学習の内容の深まりを目指して啓発を行ってきた。

イ　基礎・基本の定着のために

①　「Ｓ－Ｔｉｍｅ」の取組

ガンバロウ

「Ｓ－Ｔｉｍｅ」とは？

Ｓｕｍｏｔｏ	（栖本中学校で）
Ｓｔｕｄｙ	（学習することにより）
Ｓｔｅｐ　ｕｐ	（成績が伸び）
Ｓｍｉｌｅ	（笑顔になろう）

校内研修や職員会議がある日の放課後の３０分間を利用して、漢字・計算・英単語・理科・社会・総合の６大会を計画している。

資料Ｐ３４～３９参照

プレテスト・・・100問出題

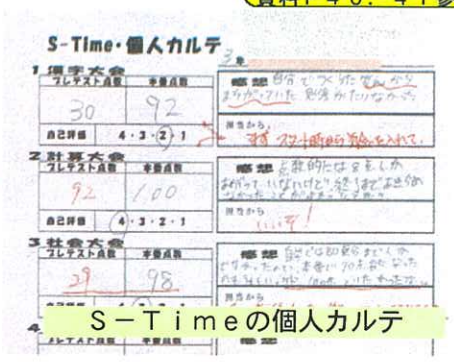
１週間後

本番・・・プレから50問出題

資料Ｐ４０，４１参照

１学期漢字大会の様子

本人と担当から一言



Ｓ－Ｔｉｍｅの個人カルテ

②　「棚ドリル」の活用

教科担当者が、内容、交換時期を考慮しながらプリントを準備し、全学年が取り組めるようにしている。例えば、国語は、漢字と言語事項、英語は、単語と基本文というふうに、基本的な内容であり短時間で取り組めるよう工夫した。また社会では、歴史や地理の分野ごとの問題を準備し、弱点克服ができるよう工夫を凝らした。図書室のプリント棚に常設し、いつでも活用できるようにしている。

五教科のプリント棚

資料Ｐ４２～４７参照

ウ　学習意欲の向上のために

①　質問学習

定期テスト前、部活動休止の期間を利用し、質問学習の時間を設定した。
１６：１５～１６：４５

質問学習は、普段なかなか時間がなく質問できない難しい問題や分からないところを質問できる時間であり、それぞれの教室ごとに教科担当教師が待機し、生徒が個別に質問する。その質問に担当教師が答えるというものである。

また、質問が終わると質問カードに担当教師からサインをもらう。

質問する生徒の様子

②　集中学習会

最初の定期テストとなる１年生への対処も兼ね、学年部の職員で指導を行う。

集中学習会

１学期の期末テスト前の質問学習の時間を利用して、集中学習に取り組んだ。初めての定期テストを体験する１年生に配慮し、帰りの会終了後の４５分間、全校生徒が、無言で、各自準備してきた内容の自習を行った。

③　発表コンクール

生徒会の学級学習委員会で計画し、実践している。毎時間の授業の発表の回数を机上に貼った個人のカードに記録し、集計をする。週ごとに集計、各学年の合計発表数、平均回数、個人の回数の上位の生徒を生徒朝会で発表した。上位の生徒のコメント発表もあり、生徒の発表に対する意識は高まりつつあると考える。

資料Ｐ４８参照

発表の回数記入表

挙手する生徒

発表する生徒

エ　表現力アップトレーニング（「Ｓカード」）の試み

教科の学習以外で、生徒の興味・関心を高めながら思考力・判断力・表現力を高める方法として、毎週木曜日の朝自習の時間（８：１５～８：３０）に「Ｓカード」として実施した。「す・も・と７つの‘Ｓ′」の一つとして「Ｓカード」と名付けた。

資料Ｐ４９．５０参照

①手順の説明

《 実施方法 》

（１）ペアを組み、向き合って座る
（２）説明を担当する側の生徒は、カードにある内容をできるだけ正確に説明（話すことのみによる表現）する。
（３）聞き手側の生徒は、聞き取った内容を書く（描く）ことにより表現する。
（４）カードの難易度に合わせ、時間を設定する。
（５）時間が過ぎたら、カードを見ながら、ペアで比較・照合する。

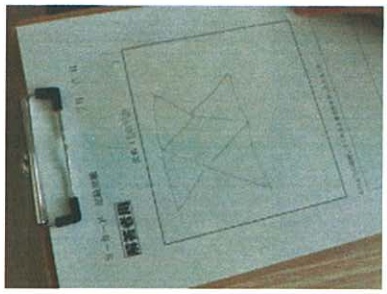
②ペアで向き合い

③一生懸命伝える

《 説明者のルール 》

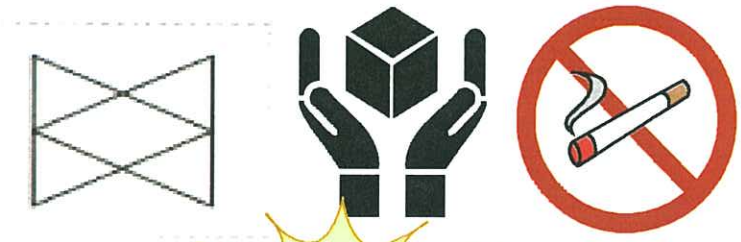
（１）全体から部分へ（トリさん見方→アリさん見方へ）
　例：紙は縦置きで使う、描く図形は全部で３つ
　　・・・トリさん見方
　　１辺の長さは３㎝、紙の端から３㎝離れている
　　・・・アリさん見方
（２）具体的に
　・「かなり」「ちょっと」等の抽象的な表現は使わない。
　・長さ、形、方向、数値等、具体的に説明をする。
（３）身振り、手振りは入れない。

④書いてみたけど？

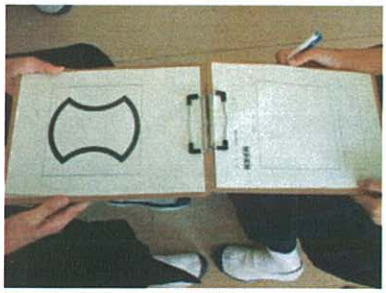


《 カードの具体例 》

図形、地図、グラフ、配置図



⑤さあ！答え合わせ



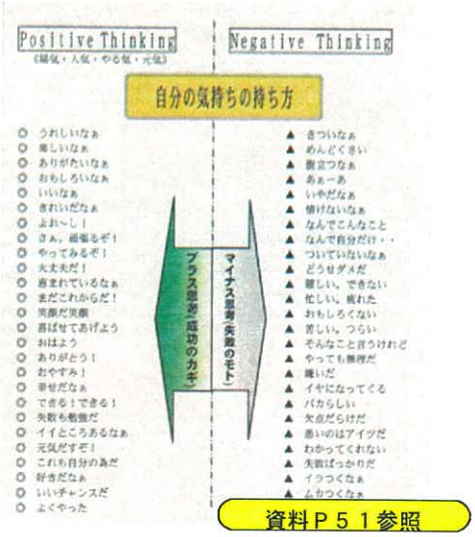
⑥伝え方のコツは？

私の説明は、まず・・・

4　その他の取組（「豊かな心づくり」と「健やかな体づくり」の推進のために）

本校は、学力充実の基盤としての豊かな心づくり、健やかな体づくりに努めている。研究構想の中にも「す・も・と‘７つのＳ’」として位置付け、「豊かな心づくり」の取組として、生徒会活動の活性化や「好きになろう！自分自身」をキャッチフレーズとした「Positive Thinking」の意識化を呼びかけている。また、「健やかな身体づくり」の取組としては、持久力や筋力の向上に向け、部活動生を対象とした３０分間の早朝ランニングや昼休みの懸垂等、体力テストの結果を受けて落ち込み部分の克服に重点的に取り組んでいる。

【 Positive Thinking 】



（1）「豊かな心づくり」

・「好きになろう！自分自身」
　好きな自分を探すことが、プラス思考を促し、生徒の自己肯定感を高めることにつながると考え、自分自身を好きだと思える生徒の育成を目指し取り組んだ。

↓

> 人権旬間の取組
> １学期の人権週間を含む６月の１０日間、自分で発見した自分の「いいところ」を記入し続け、自己肯定感の向上へとつなげた。

・「したくないことをあえてする力」（がんばる力）
　「したいことをあえてしない力」（我慢する力）の育成

・生徒会の活性化・・・生徒の力で変える！

> 栖本中学校「人権宣言」
> **【す】好きになろう、大切にしよう、自分自身**
> **【も】もっと、はっきり伝えよう、自分の想い**
> **【と】ともに認め合う、友達たくさん栖本中**
> を全校生徒で唱和し、意識向上に努めている。

> 生徒会テーマ
> **Ｎｅｖｅｒ　Ｓａｙ　Ｎｅｖｅｒ**
> **～夢への想いは力となる～**
> 目標
> **「考動」　そして迷わずｔｒｙ**

生徒会各種委員会の取組例

執行部「目指せ！あいさつＮｏ１」

☆　１週間（月１回）、あいさつ強化週間とし執行部が手本となり全校生徒に呼びかけする。週末、生徒に「あいさつＮｏ１」をアンケートし、集計する。ベスト３に入った人は、生徒朝会で紹介、掲示板にてコメントを掲示する。
　また、学年ごとで投票数が多かった学年も紹介していき、学校全体の意識向上につなげる。

「あいさつNO. 1」2年中山くん
いつも、相手より先に笑顔で挨拶するよう心がけています。

（2）「健やかな体づくり」

・部活動生対象の朝練
　毎朝　７：３０～８：００　のランニング

・昼休みの懸垂
　学年別に曜日を決め、懸垂を実施し、懸垂回数結果は、各学年別に一覧表にまとめて職員に回覧し、実態把握をしている。

↓

・生徒の頑張りを褒めると同時に更なる努力への励ましの言葉かけを行っている。

↓

・本年度のスポーツテスト結果では、握力・持久走などの種目において、効果が現れてきている。

【昼休みに懸垂をする生徒】

Ⅲ　研究のまとめ　成果と課題【成果○　課題●】

1　熊本県学力調査の結果から

平成２２年度１２月実施の熊本県学力調査と本年度７月実施（平成２１年度分）の結果を、各学年ごとに教科別、観点別に抽出し、県の定着率の平均と比較した。それをまとめたものが、下の表であり、色によって県の平均との差を示している。

◎平均を上回った（３０ポイント以上・・・緑、１０ポイント以上・・・青、５ポイント以上・・・・水色）

◎平均を下回った（０．１ポイント以上・・・桃色、１０ポイント以上・・・赤　）

〈　調査時１年生（現２年生）　昨年度との定着率比較　〉

	平成２２年１２月実施	
	平均を上回った観点	平均を下回った観点
国語	関心・意欲・態度	
	話す・聞く能力	
	書く能力	
	読む能力	
	知識・理解・技能	
社会		関心・意欲・態度
	思考・判断	
	技能・表現	
	知識・理解	
数学		関心・意欲・態度
		見方や考え方
		表現・処理
	知識・理解	
理科		関心・意欲・態度
		思考
		技能・表現
	知識・理解	
英語	関心・意欲・態度	
	表現能力	
	理解能力	
		知識・理解

平成２３年７月実施	
平均を上回った観点	平均を下回った観点
関心・意欲・態度	
話す・聞く能力	
書く能力	
読む能力	
知識・理解・技能	
関心・意欲・態度	
思考・判断	
技能・表現	
知識・理解	
関心・意欲・態度	
見方や考え方	
	表現・処理
知識・理解	
関心・意欲・態度	
思考	
技能・表現	
知識・理解	
関心・意欲・態度	
表現能力	
理解能力	
知識・理解	

〈　調査時２年生（現３年生）　昨年度との定着率比較　〉

	平成２２年１２月実施	
	平均を上回った観点	平均を下回った観点
国語	関心・意欲・態度	
		話す・聞く能力
	書く能力	
	読む能力	
	知識・理解・技能	
社会	関心・意欲・態度	
	思考・判断	
	技能・表現	
		知識・理解
数学		関心・意欲・態度
		見方や考え方
	表現・処理	
	知識・理解	
理科	関心・意欲・態度	
		思考
		技能・表現
	知識・理解	
英語	関心・意欲・態度	
	表現能力	
		理解能力
		知識・理解

平成２３年７月実施	
平均を上回った観点	平均を下回った観点
関心・意欲・態度	
話す・聞く能力	
書く能力	
読む能力	
知識・理解・技能	
関心・意欲・態度	
思考・判断	
技能・表現	
知識・理解	
関心・意欲・態度	
見方や考え方	
表現・処理	
知識・理解	
関心・意欲・態度	
	思考
技能・表現	
	知識・理解
関心・意欲・態度	
表現能力	
理解能力	
知識・理解	

○　全ての教科において大きな改善が見られ、県平均を下回る観点は大きく減少している。

○　全体的には県平均を１０ポイント以上上回る観点が多く良好な状態にある。

○　２年生の数学では大きな向上が見られる。

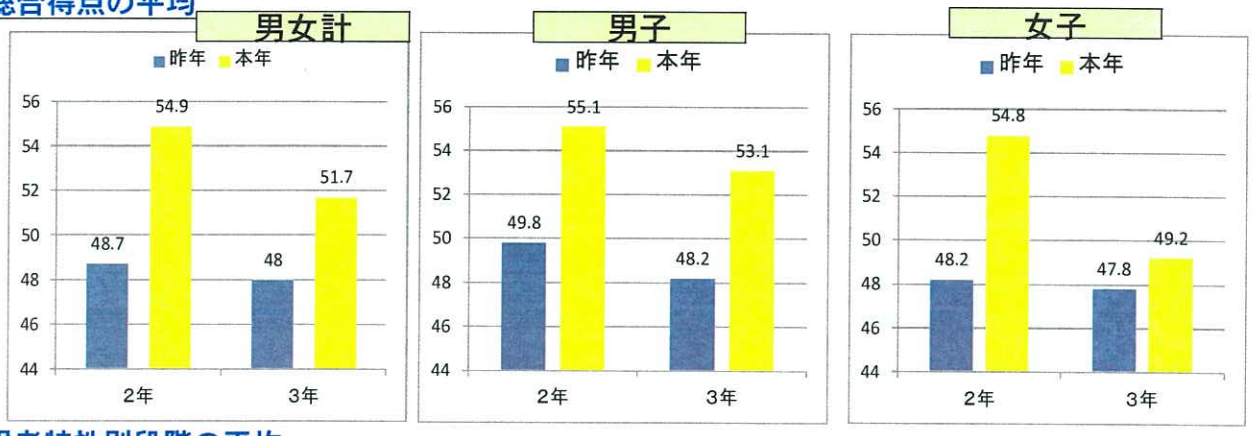
●　２年生数学の「表現・処理」、３年生理科の「科学的な思考」「知識・理解」の観点においては平均を下回っており、さらなる継続した手だてが必要だと考えられる。

2　Ｓ－Ａ創造性検査の結果から

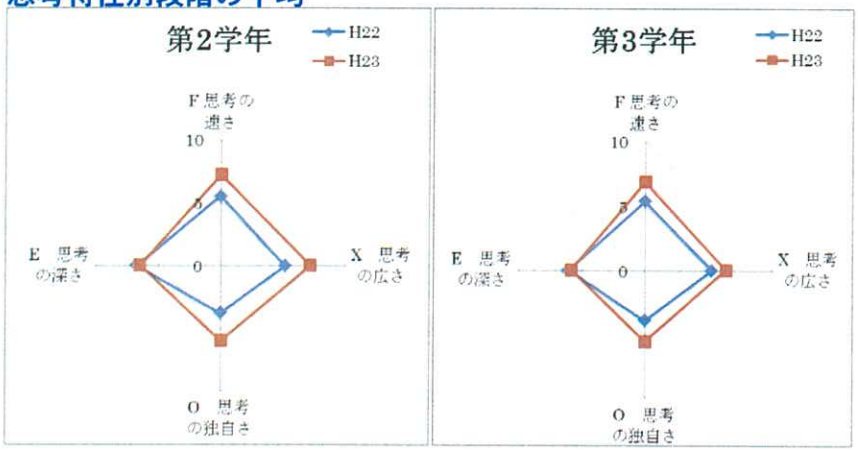
資料Ｐ５２参照

思考力を数値的に評価する方法の一つとして、Ｓ－Ａ創造性検査を昨年度１月と本年度９月の２回にわたり実施した。その結果を比較したものが以下のグラフである。

総合得点の平均

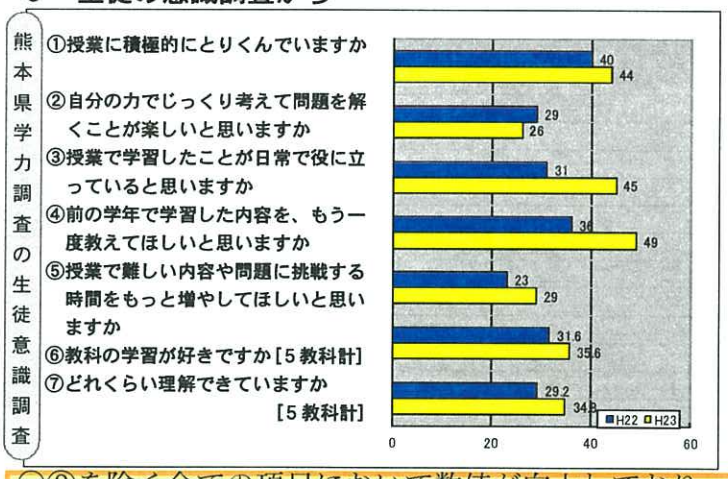


思考特性別段階の平均



○総合得点において各学年・男女共に大きな伸びが見られた。
○思考特性別に見ると、思考の速さ、広さ、独自さにおいて大きな伸びがみられた。
○４つの思考特性の分布が正方形に近い形を示しておりバランスよく発達しているといえる。

3　生徒の意識調査から



全生徒を対象として昨年度１２月と本年度７月、学習に対する意識調査を行った。アンケートは左図のグラフ内の質問に対し、「Ａとてもそう思う」「Ｂそう思う」「Ｃどちらでもない」「Ｄそう思わない」「Ｅまったくそう思わない」の５段階で回答するようにした。グラフは、昨年度も調査を実施した２、３年生分のデータを数値化した総計である。数値化に当たってはＡを２点、Ｂを１点、Ｃを０点、Ｄを－１点、Ｅを－２点とした。

○②を除く全ての項目において数値が向上しており、授業や学習に対して取り組む意欲が高まってきていることを示している。
○③と④の２項目については、特に数値が大きく向上した。③は、学習内容の有用感が高まったことを示しており、「思考アイテム」の活用により、生徒が学習内容を身近な事象と関連付けながら理解していると考えられる。また④は、「Ｓ－Ｔｉｍｅ」の実施や「自学メニュー」の活用により、基礎的・基本的事項の重要性に気付き、既習内容に対する学習意欲が高まったものと考えられる。
●②のポイントが下がっている理由としては、学年が上がるにつれて、学習内容の難易度も上がってきており、自力での解決が難しい生徒にとっては、楽しさという点で「じっくりと考えさせて意見を発表させる」場の設定や時間の確保が授業時間だけでは不足していると考えられる。主題である「思考力・判断力・表現力」に大きく関わる項目でもあり、今後も生徒に解けた時の喜びや嬉しさを味わわせながら課題の解決に努めたい。

4　視点ごとの考察

視点１－１「授業づくりのための教師の意識改革と資質向上を目指して」

資料Ｐ５３、Ｐ５４～６１参照

○小学校時の教科書を常備することで、必要な時には、実際に手に取って学習内容を確認でき、教師も生徒も、つながりを意識しながら学習に取り組むことができた。

○全員が大研を行うことで、事前検討会から授業研究会において、多様な視点からの意見を出し合うことができ、研修も深まり、授業者自らまとめることで課題意識が高まった。

○参観の視点や協議の柱を絞ることで、研究協議の話し合いも焦点化され、深まりのある協議が可能となった。また、短時間の協議の中、付箋の活用は効果的であった。

●教科の専門性の部分での協議が不足しがちとなり、講師招聘の授業の必要性が高いため、昨年度は天草教育事務所から、本年度は県教育委員会から指導主事を招聘し、訪問指導を受けた。

資料Ｐ６２～７５参照

視点１－２「熊本型授業の展開を目指して」

○**「思考アイテム」**の授業中における活用が習慣化し、生徒の中に浸透してきている。「つながり学び」や「生活体験学び」「見たこと聞いたこと学び」が既習事項の振り返りを意識化させ、現在学習していることが自分の将来（高校進学後）にもつながっていくことを感じながら、現在の学習を大事にしていこうという意識向上にもつながっている。「生徒の意識調査」項目③④⑤の向上につながっていると考えられる。資料Ｐ７６参照

○**「発表しよう！」**の活用については、自分の意見に根拠を加えて伝えることで、同じ意見の生徒でもさまざまな根拠があることを知ることができ、話し合いを通して考えが深まることにもつながった。「ただ、何となく○○と思った。」という意見が減少し、自分の考えを根拠を持って考える力が付いてきたと思われ、「生徒の意識調査」項目①の向上につながっていると考えられる。資料Ｐ１７参照

●メモなどで事前に書くものを読むことはできるが、いざ指名されると、躊躇する場面が目立ち、自信を持って自分の考えを述べるには、継続した学習訓練と意識化が必要である。

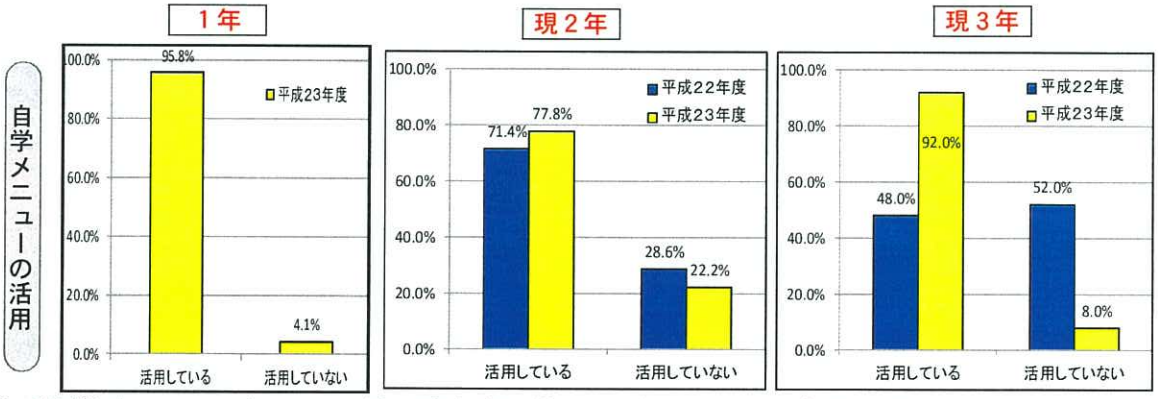
○**「振り返りカード」**の活用については、３０秒という限られた時間の中で的確に時間内に自分の考えをまとめることができるようになってきた。頑張りシールも生徒の意欲付けになっている。

●まとめ方に悩む生徒に対しては、教師が、どのようなまとめを生徒に要求していくのかということを段階的に提示していくことで、よりレベルアップしたまとめができると考える。

○「生徒の意識調査」項目⑥⑦から、教科の学習に対して「すき」→「やってみる」→「分かる」→「できる」→「もっと好きになる」という意識がうかがえる。分かる楽しさやできる喜びを味わいながら課題に取り組める授業を通して、さらに知識の活用への意識が高まりつつあると考えられる。

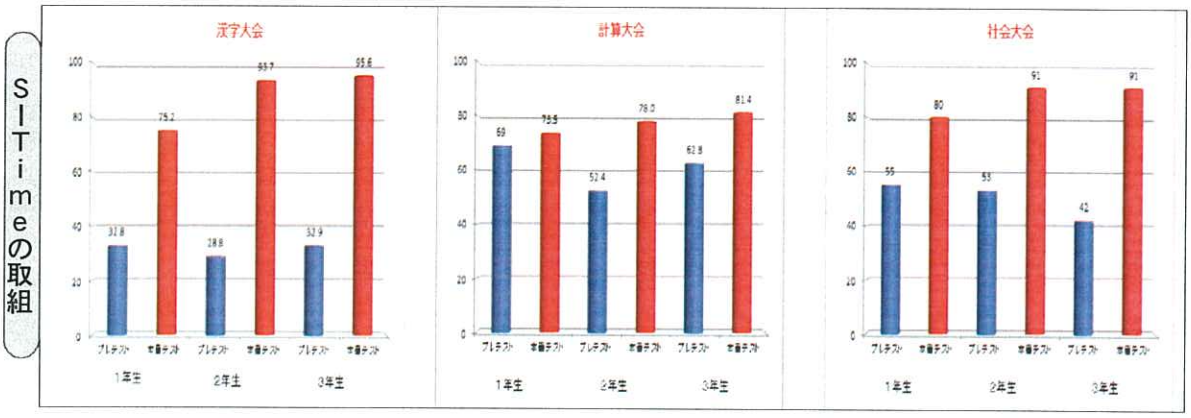
視点２「生徒の意欲向上を目指して」

資料Ｐ７７参照



○**「自学メニュー」**については、昨年度に比べ、活用している生徒が増えている。１年生も、ほぼ全員が活用している。

○特に、３年生での使用が２倍近くに増えているが、これは、昨年度課題として残った３年生用のメニューを本年度新たに作成したため、活用する３年生用が増えたためである。



○**「S－Time」**については、現在終了している３教科においては、プレテストから本番テストに向け得点が倍以上に向上した学年もあり、生徒たちに「やればできる」という自信と達成感を感じさせることにつながった。

○全校生徒の平均で比較すると

	プレテスト　　本番テスト	アップした点数
漢字大会	３１．５　→　８８．２	＋５６．７
計算大会	５８．０　→　７７．７	＋１９．７
社会大会	５０．０　→　８７．３	＋３７．３

となり、満点をとった生徒は廊下に掲示し、満点賞として生徒朝会で表彰を行った。生徒は、充実感・達成感を得、次回に向けての意欲を喚起できた。

○**「棚ドリル」**については、自主的に苦手な教科や分野を考えて選ぶことができ、また、繰り返し挑戦できることから自学への活用が進んだ。テスト前はもちろん、自学ノートへの活用も多く、ドリルプリントの入れ替えをどの程度の周期で行った場合が、最も効果的なのか検討を進めたい。

○**「発表コンクール」**は、生徒会が中心となって企画し、毎週の集計や生徒朝会での前週の総括も行っている。生徒自らが発表を意識し、発表しようという意欲が育ちつつある。

○**「Sカード」**については、最初の数回を除き、進行を生徒の手にゆだねて実施している。課題の配布からうまく説明ができた生徒による説明の“コツ”の紹介まで、一連の動きが身に付き、楽しい雰囲気の中で活動できている。生徒の感想には「言葉だけで相手に伝えるのは難しい」「正しく描けていた時は嬉しい」等があり、上手な友達の説明を聞き、物事のとらえかたや説明の仕方などを学ぶことの大切さに気付いてきている。「Ｓ－Ａ創造性検査」に挙げられる４つの思考特性の中でも特に、思考の速さが向上することに役立っていると同時に思考する楽しさにも気付き始めていると思われる。

●今後、この活動から思考力や判断力や表現力がどのように高まったのかを評価する方法を探りたい。また、この活動で身に付けた力がどのように活用できるかということについて、生徒が実感できる手だてを行いたい。

5　今後に向けて

本校では、３つの視点を設定し、主として、よりよい授業を行うためにまず教師自身が学ばねばならないもの、授業づくりにおいて工夫すべきこと、そして、生徒の意欲を高めるための手だてを柱として研究に取り組んできた。２年間の取組により、「思考力・判断力・表現力」について、一定の成果を挙げられたものと考える。ただ、「思考力・判断力・表現力」の伸びを数値的にとらえるのは、非常に難しい面があり、短期間で生徒への効果を期待できるものでもない。今後は、長期的な取組も視野に入れながら、研究の継続と充実・改善を図っていきたい。

おわりに

本校では平成２２年度・２３年度の２年間、熊本県教育委員会及び天草市教育委員会より『「生きる力」を育む研究指定校　学力充実研究推進校』の指定を受け、研究を進めてまいりました。

地域の方々や保護者の温かさに見守られながら、素直で何事にも一生懸命に取り組む優しさあふれる生徒たち。その一方で「栖本地区の子どもは、全体におとなしく、うまく自分を表現できない。」との言葉を聞くこともありました。本校の研究主題、「思考力・判断力・表現力を育成するための学習指導の工夫」は、生徒の良さを伸ばすとともに自分の思いや考えを表現できる力を身に付けさせ、十分にその力を発揮できる生徒になってくれればとの願いをこめたものでもあります。

思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒とはどのような姿か？育てるにはどのような手立てが有効か？研究は取り組むべき課題の整理からスタートしました。「目の前の子どもの姿で語っていく。」ことを目指し、研究主任を中心に全職員一丸となって、意図的・計画的に研究に取り組んでまいりました。

教科の枠を越え、日々笑顔を忘れず、“熱くなる、本気になる”を合い言葉にここまで進んでまいりましたが、わたしたちが目指す生徒像にはまだ十分に至っていないというのが現状であり、これからも研究実践を継続していくことが必要と考えております。

本日参観の皆様からいただいたご指導、ご助言を今後の研究推進、授業改善への道標と考え、これからもさらに一丸となって研究に邁進していく覚悟です。

最後になりましたが、これまでさまざまな面でご指導ご支援いただきました熊本県教育委員会、天草市教育委員会をはじめ多くの関係の皆様方に、心より感謝申し上げます。

天草市立栖本中学校
教頭　　豊田浩之

参考文献

文部科学省　中学校学習指導要領　（２００８）
文部科学省　中学校学習指導要領解説－総則編－　（２００８）
文部科学省　中学校学習指導要領解説－（各教科）－　（２００８）
文部科学省　言語活動充実に関する指導事例集【中学校版】　（２０１１）
言語力育成協力者会議　（２００７）
言語力育成に関する整理用一覧表【修正案：反映版】
中央教育審議会答申　（２００８）
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」
ぎょうせい　中等教育資料（各号）
各研究発表校研究紀要

研究同人（平成２２年度・平成２３年度）

校　長	大竹紳一郎	教　諭	野島　真樹
教　頭	豊田　浩之	教　諭	中山　俊輔
教　諭	松本　　勲	養護教諭	錦戸　尚子
教　諭	弓削　真澄	事務主幹	平山　昭一（平成２２年度）
教　諭	寺田　浩一	事務主任	池邊　五郎（平成２３年度）
教　諭	岩本　　幸	ＡＬＴ	テーラ・ケーシー
教　諭	尾中　　猛	ＡＬＴ	エミリー・テイラー
教　諭	小森ゆきえ	学校主事	園田　美恵（平成２２年度）
教　諭	中本　英次	学校主事	稗田　亜紀（平成２３年度）